

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：  
共催：土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会  
後催：防災減災連携研究ハブ (Japan Hub of Disaster Resilience Partners (JHoP))
- 3 開催日時：令和4年7月7日（木）13:30～17:00
- 4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）
- 5 開催趣旨：  
21世紀前半に発生が確実視される超巨大災害を乗り越えるために、関連するさまざまな学術分野の知見を統合し、残された時間の中で何をすべきか、発災後に何をすべきかについて、今期中の提言の検討に向けて、学術の見地から国難級災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策を考える。
- 6 参加人数：  
講演者等：12名  
その他の参加者：現地参加者37名 最大同時視聴者数242名
- 7 特記事項：
  - ・本フォーラムの成果は、IRDR分科会の審議活動に反映される。
  - ・本フォーラムでの議論は、地球惑星科学委員会社会貢献分科会、防災学術連携委員会、土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会と連携して表出することを予定『学術の動向』に特集企画として掲載の予定である提言『21世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンスの確保のあり方』に反映される。